

3期ぶりのプラス成長となった日本経済

ポイント① 1-3月期は3期ぶりのプラス成長

5月17日発表の2023年1-3月期の日本のGDP（国内総生産）統計によると、実質GDPは市場の予想（前期比+0.2%、年率換算+0.8%）を上回り、前期比+0.4%、年率換算+1.6%と3四半期ぶりのプラス成長でした。また、名目GDPは前期比+1.7%、年率換算では+7.1%と高い伸びでした。需要項目別の前期比実質増減率を見ると、個人消費は+0.6%、設備投資は+0.9%、輸出が▲4.2%、輸入が▲2.3%でした。個人消費が増加した背景は、サービス支出が+0.8%、耐久財支出が+5.9%となったことが挙げられます。

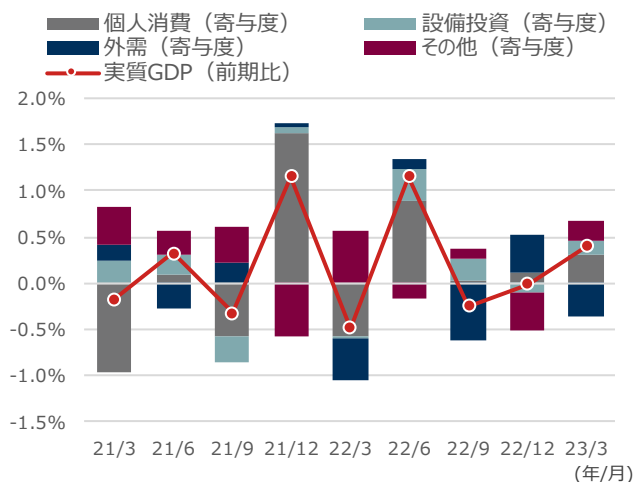
ポイント② GDPデフレーターは2期連続上昇

これまで日本のインフレは抑えられてきましたが、同統計で発表された1-3月期のGDPデフレーターは、前年同期比+2.0%と2四半期連続で上昇しました。GDPデフレーターは、輸入価格の影響を除いた国内に起因するインフレ状況を示す指標です。今回のGDPデフレーターは、これまでの原材料価格高騰や円安の影響が国内のインフレに波及していることを示唆します。

ポイント③ 日経平均株価は3万円台突破

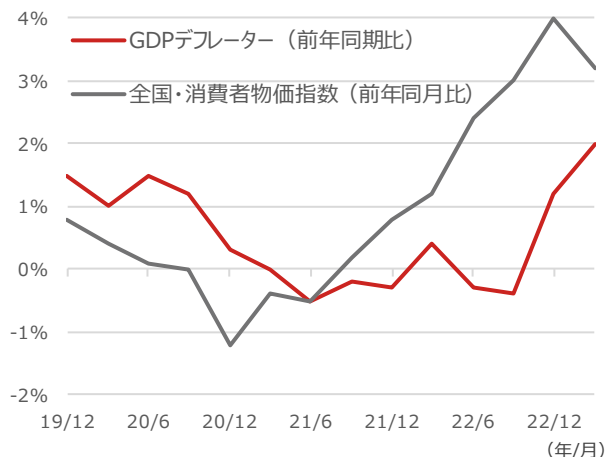
今回の統計発表で、賃金上昇を背景にインフレが定着しつつあることに加え、欧米に比べて景気回復への信頼感が高まったことが好感され、日経平均株価は3万円台、TOPIXは33年ぶりの高値をつけました。一方、1-3月期の実質雇用者報酬が前年同期比▲2.3%と実質ベースでは家計が圧迫されていることが窺えます。今後、実質賃金上昇が実現すれば、日本株に対する好材料となります。

日本の実質GDP成長率と
主要需要項目の寄与度



期間：2021年1-3月期～2023年1-3月期、四半期
（出所）内閣府「国民経済計算」（<https://www.cao.go.jp/>）
より野村アセットマネジメント作成

日本のGDPデフレーターと
全国・消費者物価指数の推移



期間：GDPデフレーター：2019年10-12月期～2023年1-3月期、四半期
全国・消費者物価指数：2019年12月～2023年3月、四半期
（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

重要 イベント

5月19日	全国・消費者物価指数（4月）
5月22日	機械受注（3月）
5月26日	東京・消費者物価指数（5月）